

## Contents

ICOM2019京都大会に向けて ～国際大会が日本の科学系博物館にもたらすもの～	2
海外博物館事情	10
9月10月の特別展等	12
リニューアル情報	14
トピックス	15

# ICOM2019 京都大会に向けて

## ～国際大会が日本の科学系博物館にもたらすもの～

国際博物館会議 (ICOM) の2019年大会が日本、京都を舞台に開催されることが決まった。ICOMには科学技術系博物館や自然史系博物館の国際委員会もあり、科学系博物館にも大いに関係する国際会議となる。

今回は、とり急ぎICOMの概要と自然史系の国際委員会NATHISTについて見ていきたい。ICOMは博物館人が共同で社会に向けて博物館の理解を形成し、改善を進めていくための組織である。遠いニュースではなく我が事とするために、まずは一歩目としての特集である。 (本誌編集委員 佐久間大輔)

## 2019年 ICOM 京都大会の開催に向けて

日本博物館協会専務理事/ICOM日本委員会副委員長 半田 昌之

### 2019年ICOM京都大会が決定

2015年6月2日、フランス・パリで開催されたICOMの諮問委員会において、2019年の第25回ICOM大会開催地として日本の京都が選ばれた。日本へのICOM大会招致については、2010年に、中国・上海で第22回大会が開催された後、本格的に検討が始まり、2012年5月に開かれたICOM日本委員会総会において、大会招致の可否について議論が交わされ、招致検討委員会が設置された。今後、日本の博物館の活性化に向けて国際化は不可欠な課題であるとの認識の下に、ICOM大会を積極的に日本に招致する必要があるとの検討委員会の報告を受け、2014年には、実際の招致活動を行うためにICOM大会招致準備委員会が設置された。その後、ICOM日本委員長である国立新美術館の青木保館長を委員長とする体制の下で、実際の準備作業を進めて臨んだ6月の諮問委員会であった。

6月1日からの諮問委員会と総会は、パリのユネスコ (UNESCO) 本部会議場で開かれた。会場の外には立候補地のブースが設置され、日本もポスター展示や映像とともにパンフレットの配布等を行い、最後の招致活動を実施した。



ブース活動の様子

当初3~4都市になるとの情報もあった立候補地であるが、最終的に米国のシンシナティと京都の2都市の対決となった。6月2日の午後から、立候補地それぞれが10分のプレゼンテーションを行った。日本は、青木保 ICOM日本委員長と、京都国立博物館の佐々木丞平館長、そして、(株)聖護院八ッ橋総本店専務取締役の鈴鹿可奈子さんが登壇し、約3分の京都紹介の動画を上映した後、京都開催の意義やテーマ、町の魅力や暮らしやすさなどを訴えた。両都市のプレゼンの後に電子投票が行われ、シンシナティ26票、京都72票、棄権2票という結果が正面のスクリーンに映し出された。当初の予定では、開催地の発表は翌6月3日の諮問委員会で行われる予定だったが、電子投票で結果が表示された上に票差が顕著だったこともあり、会場内はあたかも京都開催が決定したかのような雰囲気となり、大きな拍手とともに、ICOM会長をはじめ多くの投票者が、青木委員長ほか日本団に祝福を送った。翌日に改めて諮問委員長から、2019年大会は京都で開催する旨の告知がなされ、これを受けて日本国内でもプレスリリース等の発表が行われた。

こうして手に入れた2019年京都でのICOM大会は、日本国内のICOM会員、招致準備委員、京都府、京都市、国立京都国際会館はじめ、文部科学省、文化庁、外務省、観光庁など、多くの関係機関の方々から多大なご支援を賜った。日本博物館協会がお預かりしている脆弱な事務局の体制の中で、招致に成功したことは、ひとえに各方面からのご協力の賜物であり、この誌面をお借りして心から感謝と御礼を申し上げたい。



Hinze会長より祝福を受ける青木委員長

招致成功の結果を受けて、国内の多くの方々からお祝いとともに大きな期待が寄せられている。2020年のオリンピック・パラリンピックの前年に開かれるICOM大会は、スポーツの祭典に対する文化プログラムの主要なイベントでもあり、国や開催地からの期待も大きい。今後は、この大会の意義と役割を認識し、しっかりと準備を進めていかななくてはならない。

しかし、事は言うほどに簡単ではない。6月のパリにおいても、京都がシンシナティを凌駕した要因として、その都市としての知名度とブランド力が大きく影響していることを実感した。一方で、ICOMの活動に対しては、未だICOM自体の知名度が低く、その活動内容について博物館関係者にすら広く周知されているとは言い難い現状のなかで、会員数や活動実績からしても、米国の方が日本を大きくリードしていることは自明のことである。

こうした状況のなかで、私たちは、今一度ICOMの何たるかを認識し、2019年大会の意義を明確にして準備に取り組まなければならない。

### ICOMと日本の博物館界

国際博物館会議（ICOM: The International Council of Museums）は、1946年に設立された世界規模の博物館の専門組織で、各分野の博物館関係者が参画する世界的な集まりである。またICOMは、UNESCOと公式な協力関係を結んでいる非政府団体（NGO）であり、国連の経済社会委員会の顧問としての役割を果たしている。現在、加盟国は137の国・地域に30,000人以上の会員を持ち、本部はパリに置かれている。ICOMの会員は加盟各国毎で構成する国別の国内委員会（National Committee）を通して会員として登録され、現在30あるさまざまな専門分野の国際委員会（International Committee）に所属することができ、毎年世界各地で開催される総会等を中心に活動・交流を行っている。

ICOMの主要なミッションは、①文化財の不法輸出入の防止、②リスク・マネージメント、③文化と知識の普及促進、

④有形・無形遺産の保護の4つであり、これらのミッションを遂行するために、専門委員会（Technical Committee）として倫理委員会（Ethics Committee）や災害救援タスクフォース（Disaster Relief Task Force）等が常置機関として設けられている。

なお、3年に1回、世界各地で開催されるICOM大会（General Conference）については、2004年にアジアで初の大会が韓国・ソウルで開催されて以降、2007年にオーストリア・ウィーン、2010年に中国・上海、2013年にブラジル・リオデジャネイロで開催され、来たる2016年にイタリア・ミラノの後、2019年に京都で開催される予定となっている。

1946年にICOMが設置された当時、日本では日本博物館協会専務理事・棚橋源太郎を中心に、博物館法定の動きが活発化していたが、日本の博物館振興にとって国際化は重要な要素として位置付けられ、ICOM国内委員会の設置に向けた準備が進められ、1952年2月に正式に加入が承認された。こうした我が国のICOMへの積極的な取組のなかで、第2代ICOM日本委員長の浅野長武・東京国立博物館長や、第4代ICOM日本委員長の福田繁・国立科学博物館長は、ICOMの執行委員（Executive Council Member）を務め、日本の博物館事情を世界に発信するとともに、アジア地域の博物館の近代化に大きく貢献したが、1990年以降、執行委員に日本人は選出されていない。ちなみに、棚橋源太郎は、1957年から1961年に逝去するまでICOMの名誉会員（Honorary Member）であった。当時名誉会員は、ICOMの創設者を含め3人だけという名誉ある地位にあった。

国際委員会でも、郡司すみ・国立音楽大学教授が1995年にCIMCIM（楽器博物館委員会）の委員長を務めたほか、これまで複数の委員会では日本人が理事に就任し、CIMCIM(1991)、COSTUME（衣装博物館委員会 1994）など、いくつかの委員会の年次総会が日本で開催されてきた。またICOMには、5つの地域連盟（Region Alliance）が存在するが（アラブ、アジア・太平洋、ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海、南東ヨーロッパ）、日本は、アジア・太平洋委員会（ICOM-ASPAC: International Council of Museums Asia-Pacific Alliance）に所属し、2009年12月にICOM-ASPAC東京大会を開催している。

### 現状の課題とポスト2019京都大会への展望

このように日本は、早くから博物館の振興と国際化を車の両輪として捉え、ICOMの活動に積極的に関与してきにもかかわらず、近年のICOMでの日本の存在感は非常に希薄で

あると言わざるを得ない。個人会員と団体会員を合わせても200に満たない現状は、2019年の京都大会招致を、諸手を挙げて歓迎できる状況ではない。1990年代以降、財政的窮地に置かれ続けている日本の博物館にとっては、予算と人員の削減が続き日々の運営に追われるなかで、ICOMを通して視野を世界に広げる余裕などない、という本音も聞こえてくる。

しかし、こうした厳しい状況であるが故に、京都大会を開催する意義も大きいと訴えたい。先に大会を経験した韓国や中国の例を見ても、大会を開催した後に、両国内の博物館の課題に対する改革が進み、博物館を取り巻く状況が目に見えて改善されつつあることは明らかである。さらに、両国とも大会の開催を契機にICOMとの連携を深め、国際的な舞台で要職に就く人材を輩出し世界的な存在感を示しつつある。

日本は、アジア諸国のなかでいち早く経済発展を遂げ、博物館振興という観点でも主導的立場にあったが、昨今の博物館の窮状を見る限り、今後長期にわたるビジョンが確立しているとは思えない。一方で、日本の博物館は、展示や資料保存から情報発信に至る多くの分野で、永年の調査の蓄積の上に世界に誇れる高い技術とノウハウを獲得してきている。また、全国のさまざまな規模の博物館が保管する地域の歴史や自然に関する文化資源のなかには、一

地域や日本国内のみならず、世界に発信してこそ価値のある資料が多く存在している。

2019年のICOM京都大会の準備に際しては、30の国際委員会それぞれに窓口を設け、日本ならではの意味のあるプログラムを企画検討し、開催に向けた準備を進めていかなくてはならない。招致が成功したことを喜ぶ一方で、今後の作業を考えると大きな不安もあるが、厳しい状況に置かれた日本の博物館の現状を改めて見つめ直した上で、ピンチをチャンスに変える意志と行動が求められている。

世界情勢の複雑な変化のなかで、ICOMのミッションを達成するためには、歴史・美術だけでなく、環境や災害関連のテーマ等において科学や自然史の分野の博物館が担うべき役割も大きい。世界の専門家が集う京都でのICOM大会が、単なるお祭り騒ぎに終わることなく、日本全国の博物館の関係者が、博物館の課題に向き合い、次の時代に目指すべき地平を見定めて、そこへ向かう歩みの第一歩を踏み出すことを切に期待したい。



## ICOM-NATHISTについて

国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長 ICOM-NATHISTボードメンバー 亀井 修

NATHISTはICOMの自然史系部門の国際委員会である。NATHISTは、International Committee for Museums and Collections of Natural Historyの通称である。日本語ではICOM自然史の博物館・コレクション国際委員会と表記される。ICOMには2015年現在30の国際委員会がある (Tab.1)。

NATHISTは、自然環境と博物館コレクションを対象

として、生物多様性の保全、世界の自然遺産の科学的研究、博物館の展示を通じた公衆教育、会議、野外活動、他国際組織との連携 (直近ではWAZAとMOUを締結)などを所掌している。また、ICOM Code of Ethics for Natural History Museumsを定めたり、野生動物の不正取引の防止のワーキンググループを立ち上げたり、自然史博物館の今日的な課題に広く取り組んできている。



**Core Products**  
Security  
Communication  
Office  
Infrastructure  
Terminal System  
AVC Network

**Total Solution**

- マーケティング・セールス
- システムインテグレーション
- 設置・施工
- 保守・メンテナンスサービス
- クラウド・運用サービス

パナソニックだから、可能なソリューションがある。

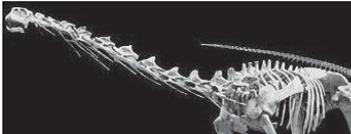


apan

パナソニック システムネットワークス株式会社 システムソリューションズジャパンカンパニー  
詳しくはホームページで [panasonic.co.jp/avc/psn/ssj/](http://panasonic.co.jp/avc/psn/ssj/)

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の  
標本及び模型を探しご案内いたします —

**マラウイサウルス  
ティタノサウルス科  
全長—10m**



株式会社 ゼネラルサイエンス コーポレーション

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-11-8  
TEL: 03-5927-8356 / FAX: 03-5927-8357  
e-mail: [gsc@shibayama.co.jp](mailto:gsc@shibayama.co.jp)  
<http://www.shibayama.co.jp>

活動はウェブに随時掲載される (<https://icomnathist.wordpress.com/>)。

2014年10月の時点でNATHISTに所属している個人は478人、機関は70である。そのうちアクティブなのは、それぞれ214人と38と把握されている。委員長はニュージーランド・Whanganui Regional Museum館長のエリック氏(Dr. Eric Dorfman)、副委員長はブラジル・University of São Paulo教授のイザベル氏(Dr. Isabel Landim)、書記は米国・Denver Museum of Nature & Science in Denver法律顧問のリンダ氏(Ms. Lynda Knowles)、会計はブラジル・University of São Paulo教員のマーシャ氏(Ms. Marcia Lourenço)、ほかの執行役員として、台湾・National Taiwan Museum館長のChen Chi-Ming氏、ザンビア・Clare Mateke氏、スペインのDr. Anna Omedes、日本からは筆者となる (<https://icomnathist.wordpress.com/about/>)。なお、委員長のエリック氏は、9月から米国ピッツバーグにあるカーネギー自然史博物館館長に就任予定である。

NATHISTは毎年場所を変えての大会を行い、その場所やその時期に即した自然史博物館と自然史資料、あるいは自然環境にかかわる話題に付いて、討議と情報交換を行っている。NATHISTの年会の場所はICOM大会の年はそれと同じ場所で、それ以外の年は開催年度の前年までの役員会で決定される。2013の年会は、ICOM大会開催地であるブラジル・リオデジャネイロで行われた。2014はクロアチア・ザグレブ、2015は台湾・台北、2016は大会開催地イタリア・ミラノが予定されている。

直近開催の2014大会開催国のクロアチアは、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争等を経て独立を確立し、2013年7月1日に欧州連合(EU)の28番目の加盟国となったところであるが、今回の移動した範囲では、紛争時の被害などは説明を受けて気づく程度で概ね落ち着いた様子であった。2014の会議ではザグレブ近郊のメインのホテルを中心に、共催のVaraždin City Museum, Nature Park Medvednica, Natural History Museum Zagrebなどを順次訪問し、会議のテーマ：自然史博物館の未来：(当面する問題との)

Tab. 1 ICOMの国際委員会

AVICOM	視聴覚と新技術国際委員会
CAMOC	都市の博物館のコレクションと活動に関する国際委員会
CECA	教育と文化活動国際委員会
CIDOC	ドキュメンテーション国際委員会
CIMCIM	楽器の博物館とコレクション国際委員会
CIMUSET	科学技術の博物館とコレクション国際委員会
CIPEG	エジプト学国際委員会
COMCOL	コレクション収集に関する国際委員会
COSTUME	衣装の博物館コレクション国際委員会
DEMHIST	伝統建築物に関する博物館国際委員会
GLASS	ガラスの博物館・コレクション国際委員会
ICAMT	建築と博物館技術国際委員会
ICDAD	応用美術の博物館・コレクション国際委員会
ICEE	展示交流委員会
ICFA	美術の博物館・コレクション国際委員会
ICLM	文学博物館国際委員会

ICMAH	考古学と歴史の博物館とコレクションの国際委員会
ICME	民族学の博物館・コレクション国際委員会
ICMEMO	公共に対する犯罪犠牲者追憶のための記念博物館国際委員会
ICMS	博物館保安国際委員会
ICOFOM	博物館学国際委員会
ICOM-CC	保存国際委員会
ICOMAM	武器と軍事に係わる博物館国際委員会
ICOMON	貨幣博物館国際委員会
ICR	地方博物館国際委員会
ICTOP	研修国際委員会
INTERCOM	運営管理国際委員会
MPR	博物館マーケティング・PR国際委員会
NATHIST	自然史の博物館・コレクション国際委員会
UMAC	大学付属の博物館とコレクション国際委員

包み込まれるような映像体験。

**Media Globe Σ**



「Media Globe Σ」は、最新の家庭用4Kテレビの、更に約4倍の高精細映像をお楽しみいただける、『8K』の投射解像度を持つ最新プロジェクタを搭載し、コニカミノルタの持つ先進の光学技術との融合により、高精細・高臨場感溢れる映像を、スクリーン全天に映し出します。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社 <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

オムロンのセンサーを使って

**OMRON**

人数 性別年代 滞留時間を数値化

展示内容、レイアウト変更の検討など企画・運営に役立つ!

ヒューマンビジョンコンボ Bluetooth LE モデル

コンパクトな手のひらサイズ

**NEW**

お手軽! 客層分析 検索

オムロン株式会社 アプリケーションオリエンテッド事業部  
お問い合わせ [okao-vision@omm.ncl.omron.co.jp](mailto:okao-vision@omm.ncl.omron.co.jp)

関連性・バランス・イノベーション (The Future of Natural History Museums: Relevance, Balance & Innovation)のもと、見学や発表、意見交換や論議が行われた。

2014の役員会で話し合われた内容は、年会の進行、役員人事、NATHISTの計画・方針、不正取引の防止のワーキングの設置、次回の年会、WAZA (World Association of Zoos and Aquariums) など他組織との覚書(MOU)などであった。また活動資金について外部にファンドを求めることなどが議題となった。議決事項の全てと講演内容の一部についてはNATHISTのウェブで見ることができる。

一般プログラムには主催国の趣向が凝らされる。初日のプログラムは、ホスト館 (Muzej seljačkih buna) の挨拶に続き、ICOM クロアチア委員長、クラピナ=ザゴリエ郡地域政府とクロアチア中央政府文化省のそれぞれ閣僚級の代表者の挨拶があった。最初の基調講演者であるオーストラリア博物館のフランク・ハワース (Frank Howarth) 氏は、「自然未来史博物館 (The natural futures museum)」のタイトルで講演した。過去と現在を語るだけではなく未来の活動について示唆をなすといった従来の自然史博物館の活動とは対極となるイメージともいえる新しい研究、新しい博物館資料活用、新しい人々とのエンゲージについて語った。2番目の基調講演者のサンパウロ大学の動物学博物館のカルロス・ロベルトF.ブランドン (Carlos Roberto F. Brandão) 氏の「自然史博物館のための現代的課題 (Contemporary Challenges for Natural History Museums)」をタイトルとする講演とあわせて、今回の会議での話し合いの前提となる文脈や背景設定が行なわれた。その後、テーマに沿った各国参加者からの発表があった。2日目は、ネアンデルタール人で有名な別のホスト館 (Muzej krapinskih neandertalaca) を会場に、宇宙誕生から現生人類までを時系列で俯瞰する博物館内の展示やネアンデルタール人の生活遺跡再現を中心とする屋外展示の視察後、各国の産

加者による発表と質疑応答が行われた。館を早めに閉館してエントランスホールを会議の会場として用いていたのが印象に残った。夜の部では時期をあわせて準備が進んでいた Trepča Minerals の展示見学と Natural History Museum Belgrade, Serbia 関係者との意見交換が行われた。3日目の午前、MEDVEDNICA NATURE PARK で軽登山を伴う自然公園の運営に関する視察を行った。自然公園での実際の史跡や自然環境の保全の状況や、鉱山跡内の視察と現状、戦乱時の被害状況などについて現地説明を受けた。午後は、伝統的な自然史博物館資料の展示を行うクロアチア国立自然史博物館 (Hrvatski prirodoslovni muzej) の視察及び展示や研究活動に関する意見交換をおこなった。夕方から夜にかけては、目的別の小グループに分かれて、ザグレブ市内中心部の視察を行った。4日目の午前予定されていた火山 (Gaveznicna volcano) の視察は、雨天のため中止となったが、すぐに代替プランが用意され、車窓からの地形の巡見と、地域の伝統的産業であるレース網の博物館の視察を行った。午後は、Varaždin Gradski Muzej Varaždin の視察を行った。初日と同じホスト館のレストランでのフェアウェルディナーでは、打ち解けた雰囲気の中で日程の振り返りが行われた。



ディナー会場 ICOM NATHIST Conference 2014 in Croatia

**NOMURA** <http://www.nomurakougei.co.jp/>

Prosperity Partner  
**NOMURA**  
世界に、歓びと感動を

株式会社 乃村工藝社  
本社：東京都港区台場2-3-4 TEL：03-5962-1171(代表)

ここを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営

 **Tanseisha**

株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2  
TEL. 03-3836-7221(代表) [www.tanseisha.co.jp](http://www.tanseisha.co.jp)  
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・福岡・那覇・北京・上海

会議の本体部分の前にザグレブ動物園等と博物館や野生生物の不正取引の問題を検討するためにICOM-NATHIST としても専門家グループによる検討会を立ち上げることが協議されている。筆者等をはじめ日本の博物館関係者が国際会議に参加する場合、案内にある日程ぎりぎりでの出張となるが、実際的な討議は会議日程の前後に行われることが少なくないようである。会議で影響力を発揮させることを考えるならば、少し早めに現地入りして様子をモニターするとともに、事後の行事にも参加し情報交換につとめることが有効であると考え。このような場での顔の見える関係を広げることは、それぞれの博物館の背景となる文化や社会あるいは価値観の共有につながり、これから機会が増えることとなる ABS での確認や WAZA など国際機関での調整の際に互いの立場を尊重した解決にもつながるものと考え。

筆者は2010、2013、2014の3回のNATHISTの年会に出席する機会を得た。2回目のICOM Rio 2013では、Natural History Museum Materials as Cultural Assets のタイトルで報告を行った。続く2014では、Anthropocene (アントロポシン、アントロポセン・人新世とも) 時代の自

然史研究、自然史研究と科学・技術史研究を総合的に扱う博物館についての発表を行った。2015年にはその「総合的」を具体化した科博のリニューアル展示についての報告を予定している。



発表会場 Muzej seljačkih buna, NATHIST Conference 2014 in Croatia

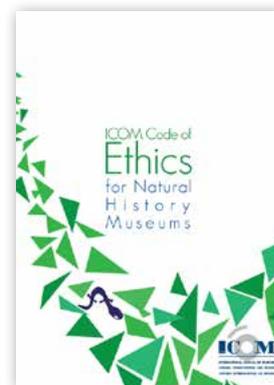
ICOM NATHIST Conference 2015 in Taiwan は、「Natural History Museums; Building Our Future」をテーマに台北市の National Taiwan Museum を主会場として今年2015年10月に行われる予定である。参加申し込みは、<https://icomnathist.wordpress.com/conference-2015/> から行うことができる。(NATHISTは、参加しやすい雰囲気国際委員会です。ものは試し!ご参集ください。)

## ICOM NATHIST による自然史博物館の倫理規定

大阪市立自然史博物館 佐久間大輔

ICOM NATHISTによる様々な活動を統合するかのよう象徴的に示されているのが Code of Ethics for Natural History Museum である。博物館全般の活動については「イコム職業倫理規定」(以下イコム規定)が知られ、2004年版は日本語にも翻訳されている ([http://icom.museum/fileadmin/user\\_upload/pdf/Codes/code\\_ethics2013\\_eng.pdf](http://icom.museum/fileadmin/user_upload/pdf/Codes/code_ethics2013_eng.pdf) 2015年7月30日確認)。NATHIST版は、化石や鉱物の取り扱い、自然保護など自然史部門ならではの倫

理規定となっている。原文はこちらからダウンロードできる。[https://icomnathistethics.files.wordpress.com/2013/09/nathcode\\_ethics\\_en2.pdf](https://icomnathistethics.files.wordpress.com/2013/09/nathcode_ethics_en2.pdf)



倫理規定は使命(ミッション)や学芸員資格、博物館の認定制度と同じく社会から博物館に対する信頼や信用を獲得するための制度である。使命が博物館の活動目的の社会的重要性を示すこと、資格や認定制度が技術水準の高さで信頼を獲得するのに対し、倫理規定は判断基準の明

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本/化石・鉱物・岩石  
古生物/レプリカ・復元模型  
恐竜復元モデル

since 1974

◆常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks  
**株式会社 東京サイエンス**  
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745  
<http://www.tokyo-science.co.jp>  
E-mail: info@tokyo-science.co.jp  
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

示によって博物館活動への理解を醸成することを担っている。倫理規定の欧米の博物館を中心とした進展は、ファンディング、ボランティアなどの市民参加、スポンサーや行政を含めたステークホルダーとの合意形成のために、社会とのコミュニケーションをはかる基礎的なツールとして必要であるため、と指摘できるだろう。国内の博物館にとっても市民参画や外部資金獲得は次第に重要性を増している。世界ではどのような観点で倫理規定が構成されているのかは、今後の活動に参考になるだろう。

さらに、ICOM NATHISTのような国際委員会が策定した倫理規定は、今後国際的な博物館間のトラブルが起きたときに、解決のためのガイドラインになっていく可能性がある。自然史博物館においても海外の標本を入手したり展示したりする場合も多い。こうしたことから日本の博物館も無視することができない倫理規定となっている。

#### 自然史博物館の倫理規定策定の経緯

ICOM NATHISTのEthics working groupは2006年に結成されている。2004年にイコム規定が採択された直後から議論が始まったといえる。その後の議論は同委員会のBlog (<https://icomnatistethics.wordpress.com/>)でたどることができる。例えば、絶滅したモアに関する議論がある。モアの頭骨標本はネットオークションで取引が加熱したが、絶滅動物であるためにCITES(ワシントン条約)による取引規制がない。しかしニュージーランドの国民とりわけマオリの人々にとっては文化的意味も強く取引規制の必要性が議論された。NATHIST外での議論も反映されている。例えば、WAZA(世界動物園水族館会議)の倫理規定、Association of Applied Paleontological Sciences(応用古生物科学協会)が策定した倫理規定の内容が反映されている。素案は2010年ICOM北京大会での議論を経て、2013年リオデジャネイロで開催された第23回ICOM大会において採択された。これは、同大会における大きな成果の一つとされている。

#### 自然史博物館の倫理規定の構成と内容

筆者は、日本版の倫理規定である「博物館の行動規範」の素案策定に関わっていた関係で、ICOMの動向に関心を持っていて、2013年11月にこの倫理規定の原文を目にし、翻訳を試みた。何度かの改訂の後、2015年2月の全科協大会において公開、配布した。

[http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/icomnathist\\_](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/icomnathist_)

[codeofethics\\_jpn.pdf](#)

全文掲載には紙幅が足りないため上記のリンクを参照いただくと、ここでは、構成と特徴について述べておきたい。

序章には定義や概要、意見表明が載る。この中で議論の前提として自然史博物館が持つ多面的な目的として以下の5つを上げている。

- 自然史資料コレクションの構築と保存
- 研究の実施と結果の解釈
- 科学的研究実施と生物学的保全の支援
- 市民の自然界に対する理解と尊重の促進
- 市民が博物館や自然の中で自然の遺産に出会うことによって生じた、一人ひとりの熱意を引き出し、市民と協同すること

研究や資料保全といった博物館の中の活動だけに閉じない、自然史資料に関わる教育や自然保護など、社会の広範な問題に関わる姿勢が示されている。

また、自然史資料については

*博物館が収蔵する自然史資料コレクションは自然界の三次元的なアーカイブであり、社会が周囲の環境とどのように関連しているかを示すものでもある。しばしば、もう現存しない世界についての記録でもある。このため、これらの資料は重要な資源であるという認識のもと、配慮と注意を持って扱われるべきである。*

とその価値が明確に宣言されている。自然史資料の文化財的価値については東日本大震災以降話題にのぼっているが、国際的スタンダードとしての投げかけは重要な示唆となるだろう。本文の構成はBox1に掲載した。

第1章は「遺骸(人類遺体)」についての取り扱いである。国内で人類学部門を持つ自然史系博物館は少ないが、海外では人類学、民俗学部門が自然史博物館に併設される例が少なくない。先住民族・少数民族の文化誌、民俗展示に配慮が必要なことは言うまでもない。近年のプラステーションによる人体展示やミイラを含め、遺骸の展示は特段の配慮を要することから、イコム規定にも触れられているが、さらに詳細に取り扱われている。

第2章は現生または近過去の生物の標本について取り扱う。近年の学術誌の取り扱い同様、資料の採取時及び入手経路についての合法性を強く求め、標本へのアクセス保証や写真撮影制限を最小限にすることなど、資料保持機関の公共的性質を強く押し出している。標本利用者からの

アクセスの保証には植物命名規約及び動物命名規約の勧告が引用され、学術的に公開の必要性を示しながら自然史系博物館としての基準として歴史や美術分野との違いを際立たせている。また、具体の海外調査を念頭にしたコンプライアンスを示しつつ、自然保護、動物福祉の視点も強化されている。社会への説明のためでもあり、自然保護団体などとの対話の道を開いているとも言えるだろう。

第3章では岩石、鉱物と化石を取り扱う。冒頭で化石資料の特段の価値について触れ、博物館内での保存の責任だけでなく、産状保全への配慮や、自国だけでなく原産国の法令、イコム規定2章の遵守などを求める。商業的な取引に必要な配慮点などにも言及しており、ミュージアムショップなどで鉱物・化石を取り扱っている博物館は考慮を要するだろう。

第4章は収集と返還と題され、前半に具体的な調査に向けた勧告が、後半には標本の維持管理者としての責務が書かれている。前半の勧告には調査前にすべての法的規制がクリアになっているべきこと、調査国と自国でより厳格な基準に合わせるべきこと、当該国の関係者に調査の結果がすみやかに知らされるべきこと、全ての収集資料の供託は野外調査が開始される前に決定されるべき、など具体的なガイドラインが続く。こうした事は研究当事者には当たり前のこともあるが、研究者間の業界慣習としか思われず、いざトラブルになった時に総務系や博物館外の関係者にとっては拠って立つガイドラインがないといった場合も多

かった。そうした時に世界の自然史系博物館のスタンダードとしての「倫理規定」が判断の拠り所になることは重要である。

後半には「自然史資料とその関連情報は所蔵する各機関の占有財産ではなく、我々は世界共有の財産の管理人業務 [global custodianship] をしているという意識のもとで保持されるべきである。」という高い理念が示されるとともに、資料の保全義務、ICOM NATHIST の支援が述べられる。

第5章は人と収蔵品への配慮義務が述べられ、自然史標本の管理保全のために参照すべきマニュアルが具体的に列挙される。そのうちの幾つかは以下のリンクからもアクセスできる。<http://www.collectionslink.org.uk/>

第6章は博物館に収蔵した標本、情報の公表義務が述べられる。学芸員には研究を論文として公表することが強く求められ、また博物館の資料情報が研究者に公開されるべきことが示されている。

また附属書には剥製に関する勧告が述べられ、記録の重要性や、展示用には使えない傷んだ剥製も資料としての重要性を持つことなどが示されている。

以上非常に雑駁ではあるが、「自然史博物館の倫理規定」の概要を述べてみた。海外で収集した標本の取り扱いだけでなく、自館の地域での活動を説明するためにも依拠することのできるグローバルスタンダードとしてぜひとも参照をおすすめしたい。最後になるが、訳文の改良すべき点などがあればお知らせいただければ幸いである。

#### Box1. 自然史博物館の倫理規定の構成と内容

##### 第1章 遺骸

人類遺体及び関連品への尊厳を尊重した取り扱い

##### 第2章 無脊椎動物や植物を含む、その他の現生または近過去の生物の標本

合法的取得、利用の自由、限定された撮影制限、動物遺体への敬意、生品展示時の配慮、製品販売時の留意点、種の保全への配慮、野外採集時の配慮

##### 第3章 岩石、鉱物と化石

合法的採集、産状保存への配慮、商業取引時の留意点、学術的資料の保全、国際取引の留意点

##### 第4章 収集と返還

海外での収集活動での事前の許可取得、コンプライアンス、関係機関への速やかな情報提供、調査前に資料の帰属を決定することの勧告、付加価値をつけた資料の帰属、世界共有の資料の財産管理人業務を行う学芸員、資料の保全義務、知識の共有

##### 第5章 人と収蔵品の両者に配慮する義務

来場者や職員の安全確保、博物館資料の販売の回避、資料保全のためのガイドライン、展示に際しての資料保存への配慮、情報収集

##### 第6章 公表

データ公開の義務、公表の義務

付属書 剥製作成の技術とその文化伝承の重要性：剥製の管理に最善策を求める規定



## ■ 新しい常設展示

### エストニア健康博物館、新しいテーマ展示をオープン

バルト三国のひとつエストニアのエストニア健康博物館(1924年設立)では、人体の生体構造を紹介した常設展「あなたの体を公にする」を2014年にオープンしたが、このほどこれを補完する目的で7部構成のテーマ展示を2015年5月23日にオープンした。新しいテーマ展示は、「エストニアにおける衛生の歴史」「エストニアにおける医学の発達」「人間の性」「妊娠と出産」「人間の一生」「薬物依存症」「ガラス製女性人体模型」。「エストニアにおける衛生の歴史」では、1944年に始まるソ連による占領から1991年にソ連からの独立までの併合期間(1994年にロシア軍完全撤退)にエストニアで発展した衛生思想を取り上げており、特に細菌感染、ウイルス感染と寄生虫感染の紹介に力を入れている。47年に及ぶソ連の植民地的統治は、エストニアの国民生活に厳しい節約を求め、高い効率化と生産性を強く求めたクレムリンは小国エストニアに徹底した衛生管理を求めるものでもあった。このためにバルト三国にあって隣国のリトアニアとラトヴィアよりも衛生思想が発達し、早い時期に狭い国土(九州本島の1.23倍)の隅々まで徹底した衛生管理が普及した。なお2014年から2015年にかけてエストニア健康博物館の常設展は大々的にその内容を刷新したが、1989年に制作されたガラス製の女性人体模型は制作された当時の電飾技術を使ったまま、依然として同館の目玉展示の座を他に譲っていない。

Eesti Tervishoiu Muuseum, Tallinn.

<http://www.tervishoiumuuseum.ee/>

<http://www.kaosarhitektid.ee/eesti-tervishoiumuuseum/>

[http://koko.ee/en/projects/type/index.php?option=com\\_koko&view=project&id=109-estonian-health-care-museum](http://koko.ee/en/projects/type/index.php?option=com_koko&view=project&id=109-estonian-health-care-museum)

### ベルギー王立自然科学博物館、人類の展示をオープン

ベルギーの首都ブリュッセルにあるベルギー王立自然科学博物館(1846年設立)で、人類を包括的に紹介した常

設展示「人類のギャラリー：わたしたちの進化・わたしたちのからだ」が2015年5月7日にオープンした。新しい展示では、「人類の進化」をはじめ、「現代人」、「わたしたちのからだ」の三つのコーナーで構成されている。展示演出では、スマートフォンを使ったデジタル技術をはじめ、エレクトロニクスを使わない触察手法をもふんだんに使っている。

Galerij van de Mens - Onze evolutie, ons lichaam.

Museum voor Natuurwetenschappen, Brussel.

<https://www.youtube.com/watch?v=pu-ZTOPAEAo>

<https://www.naturalsciences.be/nl/museum/exhibitions-view/771/2762/697>

### ヒューストン自然科学博物館、化学の展示をリニューアル

米テキサス州のヒューストン自然科学博物館(1909年設立)で、化学をテーマにした常設展示ホールを大々的に内容を刷新し、2014年11月18日にリニューアル・オープンした。新しい展示では、宇宙の始まり、DNA、ホテルの発光システム等の紹介に力を入れている。目玉展示は、巨大な人間のDNA模型。ヒューストン付近にあるベイラー医科大学、ライス大学、ヒューストン大学や化学メーカーの研究所等で得られた最新の研究成果も紹介しており、ウェルチ財団(ヒューストン)から100万ドルの助成を受けて完成した。展示面積:650㎡。

Welch Hall of Chemistry.

Houston Museum of Natural Science, Houston.

[http://hmns.org/index.php?option=com\\_content&view=article&id=120&Itemid=131](http://hmns.org/index.php?option=com_content&view=article&id=120&Itemid=131)

### スミソニアン航空宇宙博物館、飛行の展示を全面リニューアル

米国の首都ワシントンのスミソニアン国立航空宇宙博物館で、入口のメイン・ホールにある「飛行の歴史における画期的な出来事」が、2016年の全面オープンをめざして、展示の大々的なリニューアルが進行している。同展示は現在の建物が開館した1976年7月1日以来ほとんど内容を変えてこなかったが、このほど米国の代表的な航空機メーカーのボーイング社から総額3,000万ドルの寄付を受けて全面リニューアルすることになった。この寄付は同社の創立100

周年記念事業のひとつであり、2016年に完成する新しい展示ホールは、同社を冠して「Boeing Milestones of Flight Hall」となる。この展示ホールは今まで同館にとって最も人気が高かったために、現在進行中のリニューアルの期間中は全面的に観られなくなるわけではなく、順次展示品を入れ替えたりして、観覧者の便宜を考慮している。

Boeing Milestones of Flight Hall.

Smithsonian National Air and Space Museum.

<https://www.youtube.com/watch?t=40&v=KYIB17NXetU>

<http://www.collectspace.com/news/news-040314a-airspace-museum-milestones-renovation.html>

## ■ 企画展・特別展

### 南ア・アドラー医学博物館で、アスベストの被害展を開催

南アフリカ共和国の最大都市ヨハネスブルグのウィットウォーターズランド大学にあるアドラー医学博物館（1974年設立）で、アスベストによる健康被害をテーマにした写真展が開催された。同展では、既に閉山になった南アフリカとオーストラリアのアスベスト鉱山で、かつて鉱山でアスベストの採掘に従事していた人々と周辺地域の住民が今もアスベストによる塵肺、肺線維症、肺癌、悪性中皮腫などの人体への健康被害に苦しんでいる様子を克明に紹介したものだ。展示された写真は、いずれも、かつて人種隔離政策「アパルトヘイト」を写真で告発し、また写真によってアスベスト問題を追ってきた写真家デビッド・ゴールドバット（1930年生まれ）の作品だ。南アフリカ生まれのゴールドバットは、ニューヨーク近代美術館で開催されたソロ展（1998年）などで高い評価を得ており、世界最高峰の写真賞であるアンリ・カルティエ・ブレッソン賞やハッセルブラッド賞を受賞している。同展は2008年に開催されたが、今回の開催では新たな写真を加えて、アスベスト問題への関心を呼びかけたものだった。

会期：2015年5月18日～7月17日。

Asbestos: Wonder Fibre - Serial Killer.

Adler Museum of Medicine, Johannesburg.

[http://www.wits.ac.za/newsroom/eventitems/201505/26356/event\\_item\\_26356.html](http://www.wits.ac.za/newsroom/eventitems/201505/26356/event_item_26356.html)

[http://www.wits.ac.za/academic/health/museums/adlermuseum/exhibitions/10358/asbestos:\\_wonder\\_fibre\\_serial\\_killer.html](http://www.wits.ac.za/academic/health/museums/adlermuseum/exhibitions/10358/asbestos:_wonder_fibre_serial_killer.html)

<http://www.stevenson.info/exhibitions/goldblatt/asbestos/asbestos.htm>

### ベルリン自然博物館で、ハ工展を開催

蠅は、御器嚙り（京都・大阪では昔から別名を「ぼっかぶり」と呼ぶ）や蚊、南京虫、蚤、虱、蜘蛛等とともに、とかく日常生活では、忌ま忌ましい連中とか、ガイチュウ（害虫）として扱われていることが多いが、最近の調査研究によって益虫としての認識が静かに広がっていることも確かだ。青果業、醸造業において害虫でもあるショウジョウバエ科の一部は生命科学の実験動物として貢献をしているというし、ハナアブ科は虫媒花に集まるので農作物の受粉に役立っている等々。ベルリン自然博物館では、そうしたハエが持つ益虫としての顔を紹介した特別展だった。

会期：2014年8月16日～2015年1月15日。

Fliegen.

Museum für Naturkunde, Berlin.

<https://www.youtube.com/watch?v=LMUDPFy5dD8>

<http://www.naturkundemuseum-berlin.de/ausstellungen/archiv-fliegen/?Fsize=2>

### 香港医学博物館で、「香港におけるマラリアの歴史展」を開催

香港では1969年に英領香港政府によってマラリア撲滅の勝利宣言が発せられ、以来香港では地元住民の間での土着マラリアの発病を見ていない。しかし第二次世界大戦直後から1960年頃まで毎年のようにマラリアの大流行があった。香港大学の香港医学博物館（1996年設立）で開催された「熱病：香港におけるマラリアの歴史」は、20世紀における香港でのマラリアの大流行を紹介したものだった。

会期：2015年4月25日～7月26日。

Fever: The History of Malaria in Hong Kong.

Hong Kong Museum of Medical Sciences, Hong Kong.

[http://www.chm.hku.hk/history\\_of\\_malaria.html](http://www.chm.hku.hk/history_of_malaria.html)

## 9月10月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	開館10周年記念イベント「グッド・トイキャラバン」	9月19日～9月23日
	遊びんピック	10月10日～10月12日
秋田県立博物館	徳川家康没後400年・秋田県立博物館開館40周年記念 特別展 「徳川将軍家と東北 - 泰平の世の歴史と名宝 -」	9月12日～10月25日
山形県立博物館	特別展「蝶と蛾-妖精たちのつどい-」	9月19日～11月29日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「探険 宇宙ステーション」	7月1日～9月30日
	ホワイエ企画展「宇宙誕生」	10月1日～11月29日
産業技術総合研究所 地質標本館	地質標本館2015年夏の特別展「ジオパークで見る日本の地質」	7月14日～9月27日
ミュージアムパーク茨城県自 然博物館	くらしのなかの動物 嫌われものの本当のすがた	10月10日～2016年1月31日
栃木県立博物館	テーマ展「狩りバチ」	7月18日～9月23日
	特別企画「名前に「日光」がつく動植物」	10月3日～2016年1月24日
群馬県立自然史博物館	第50回企画展「たべる。」	10月3日～11月29日
群馬県立ぐんま昆虫の森	季節展「秋の野山の昆虫展」	9月5日～11月3日
埼玉県立自然の博物館	企画展「パレオパラドキシア～大野原標本発掘から40年～」	9月19日～12月27日
千葉市科学館	「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品展	10月16日～11月3日
千葉県立中央博物館	「どんぐり～花から実への大変身～」	10月20日～2016年1月24日
	「おしゃれ虫 カタゾウムシ」	10月24日～12月20日
	「水草 ふしぎがいっぱい、水辺のいろいろ」	10月31日～2016年2月14日
国立科学博物館	企画展「過去5万年間の時をはかる」	9月8日～10月12日
	企画展「世界のヒョウタン展-人類の原器-」	9月15日～12月6日
多摩六都科学館	西武池袋線100周年記念 秋の特別企画展 「GO!GO!たまろくトレイン～鉄道のヒミツ大解剖～」	9月19日～10月25日
	第15回日本万華鏡大賞多摩展	10月10日～11月3日
新江ノ島水族館	えのすい×チームラボ ナイトワンダーアクアリウム2015	7月18日～12月25日
	楽しく知って守ろう 「相模湾からマリアナ海溝へ～調査で分かったニホンウナギの一生」	9月1日～9月30日
	9月テーマ水槽「秋の味覚を先取り」	9月1日～9月30日
	海月の宇宙～秋～	9月1日～10月31日
立山カルデラ砂防博物館	新湯-立山カルデラの神秘的湯-	10月3日～12月26日
富山県 立山博物館	立山と白山-北陸霊山の開山伝承-	9月19日～11月15日
富山市科学博物館	第36回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2015-2016」	9月19日～10月4日
	第74回 富山県科学展覧会	10月15日～10月19日
	収蔵品展「とやま恐竜化石展」	10月24日～11月15日
大垣市サイトピアセンター 学習館	うまれる絵本展	10月3日～11月3日
	新美南吉展	10月10日～11月3日

開催館	展覧会名	開催期間
中津川市鉱物博物館	第19回企画展「地質図と岐阜県の石」	7月18日～12月13日
ディスカバリーパーク焼津	秋の特別展「びんかん？どんかん？からだ感かく選手権」	9月5日～11月29日
豊橋市自然史博物館	第11回自然史博物館自由研究展	10月10日～11月3日
蒲郡市生命の海科学館	超・氷河期と生命の大進化～全球凍結とカンブリア爆発～	7月11日～11月3日
	第6回「惑星地球フォトコンテスト」入賞作品展	9月19日～11月3日
名古屋市科学館	企画展「バイオなものづくり」	9月12日～9月23日
	特別展「生命大躍進」脊椎動物のたどった道	10月17日～12月13日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「琵琶湖誕生－地層にねむる7つの謎－」	7月18日～11月23日
キッズプラザ大阪	科学であそぶ・まなぶ!キッズ・サイエンスウィーク おもしろ!? 実験大集合	9月19日～9月23日
大阪市立自然史博物館	特別展「たまごとたね－いのちのはじまりと不思議－」	7月18日～10月18日
	2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」	9月19日～10月18日
姫路科学館	第51回姫路市児童生徒科学作品展	9月20日～10月12日
明石市立天文科学館	特別展「紙の宇宙博2015」	7月18日～9月6日
	特別展「児童生徒作品展」	9月12日～10月12日
	特別展「月の写真コンテスト展」	10月17日～12月6日
岡山県生涯学習センター	企画展「青年海外協力隊創立50周年事業・JICAミニプラザ」	9月5日～11月8日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「秋の鳴く虫展」	8月29日～9月13日
	第24回特別展「島の植物－岡山県の島巡り－」 パート2：倉敷市・笠岡市の島	9月8日～11月8日
	特別陳列「新着資料展2015」	11月21日～2016年1月11日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	企画展「健康人生ゲーム『天国と地獄』～健者への道は？～」	7月18日～10月25日
	企画展「ふしぎな免疫の世界～戦え!!からだ防衛軍～」	10月31日～2016年3月6日
広島市交通科学館	広島を駆ける モーターサイクルレースの軌跡	10月15日～11月29日
大和ミュージアム 呉市海事歴史科学館	終戦70年・開館10周年記念特別企画展 「日米最後の戦艦展～戦艦大和とミズーリ～」	7月1日～2016年1月31日
防府市青少年科学館	防府市小中学校科学作品展	9月30日～10月4日
	秋の特別展「オートマタの世界展」	10月24日～12月6日
北九州市立自然史・ 歴史博物館	世界文化遺産登録記念展「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命」	7月4日～11月8日
	夏の特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」	7月11日～9月23日
	秋の特別展「医は仁術」	10月10日～2016年1月11日
佐賀県立宇宙科学館	海王展 海の支配者たちの系譜	7月11日～9月27日
宮崎県総合博物館	美しき宮崎の滝200～なぜそこに滝があるのか？～	10月17日～11月29日
沖縄県立博物館・美術館	博物館特別展「琉球弧の葬墓制－風とサンゴの甲い－」	9月25日～11月23日

# リニューアル情報

## 白浜エネルギーランド

[更新箇所] 太陽の街

上映コンテンツ、ジオラマ模型、1階・2階パネル  
展示エリア

[更新内容] 映像やジオラマをリニューアルし、自然エネルギーの  
活用方法や環境問題だけでなく、エネルギーの地産  
地消についても、お子様から大人の方までわかりやす  
く学ぶことができる内容となりました。

パネル展示エリアではオリジナルキャラクター「エネゴ  
ン」が「エネルギーの歴史」を解説します。7つの自  
然エネルギーの解説パネルも新設しました。

(監修：和歌山大学 システム工学部 環境システム学科  
中島敦司教授)

[更新面積] 480㎡

[公開日] 平成27年7月1日

[準備期間] 平成26年12月～平成27年6月



## 国立科学博物館

[更新箇所] 地球館（北側部分）

[更新内容] 総合展示テーマ「人類と自然の共存をめざして」に基  
づいて、子供から専門家まで多様な人々が先端的な  
科学の世界を楽しむことができ、科博と科学との“対話”  
を育むことができる場となることを目指しました。最先  
端の科学的知見をふまえた新しい展示をお楽しみいた  
だけます。

1F：地球史ナビゲーター等

2F：科学技術で地球を探る

3F：親子のたんけんひろば コンパス

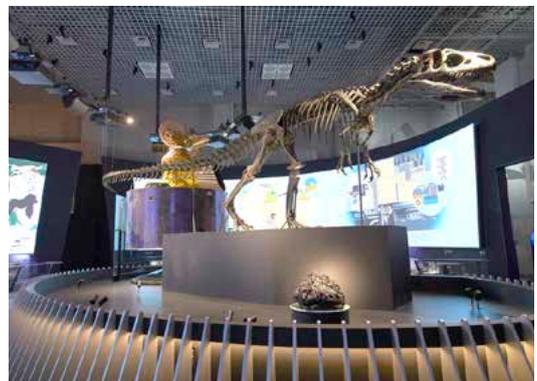
B1F：地球環境の変動と生物の進化 - 恐竜の謎を探る -

B3F：自然のしくみを探る

[更新面積] 約2,300㎡

[公開日] 平成27年7月14日

[準備期間] 平成26年9月に展示室を閉鎖し、改修工事開始



1F：地球史ナビゲーター

宇宙史・生命史・人間史の壮大な物語をテーマとした、地球館  
の展示室全体をつなげるシンボルゾーン



2F：科学技術で地球を探る

変動する地球の姿をとらえる科学技術について、体験型展示  
を中心に紹介



## 平成27年度 海外科学系博物館視察研修

▶ 日程:平成28年1月10日(日)~20日(水)(予定)

▶ 行き先:イギリス(マンチェスター、レスター、ロンドン、ブリストル)

今年度の研修先は欧州イギリスに決定いたしました。ロンドン自然史博物館を始め、イギリス各地の4施設を公式訪問する予定となっています。また、自主研修のための時間も確保されていますので、この機会をご活用下さい。

研修の募集要項は9月中旬頃郵送予定です。(HPでもお知らせします)皆さまのご参加をお待ちしております!



## 平成27年度 第2回理事会・総会、第23回研究発表大会開催日決定

▶ 日程:平成28年2月25日(木)・26日(金)

▶ 場所:富山市科学博物館

今年度は全科協史上初となる北陸富山県での開催となります。記念講演では東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構副機構長 鈴木洋一郎氏に講演いただく予定です。

日程等の詳細は12月下旬にお送りする開催通知にてご確認ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

また、26日開催の研究発表大会での発表者の募集は10月中旬頃を予定しています。多様な事例発表の場となりますよう、皆さまの応募をお待ちしております。



全国科学博物館協議会

### 全科協ニュース編集委員

大島 光春(神奈川県立生命の星地球博物館主任学芸員)

沓名 貴彦(国立科学博物館理工学研究部研究員)

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸員課主任学芸員)

西田 雅美(公益財団法人日本科学技術振興財団  
科学技術館運営部副主任)

中井 紗織(国立研究開発法人科学技術振興機構  
理数学習推進部能力伸長グループ)

畠山 泰英(株式会社キウイラボ代表取締役)

平濱美紀子(ディスカバリーパーク焼津事業係長)

中山 由紀(国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

### 全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課  
(担当:村上、飯岡、中島)

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9898

info@jcsm.jp

発行日 平成27年9月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718

台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 株式会社セイコー社